

平成24年度 定期作況報告

(10月20日)
(畑作の部 気象概況訂正後)

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
中央農業試験場

水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より3.2℃高く、降水量は平年の109%、日照時間は平年の68%であり、高温、寡照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より1.3℃高く、降水量は平年の39%、日照時間は平年の135%であり、高温、小雨、多照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の243%、日照時間は平年の68%であり、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月の平均では平均気温は平年より1.6℃高く、降水量は平年の108%、日照時間は平年の88%であり、高温、寡照に経過した。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	22.1	19.5	2.6	19.8	17.7	2.1	15.4	15.9	△ 0.5	19.1	17.7	1.4
最低気温(℃)	13.9	9.8	4.1	9.6	8.4	1.2	8.0	6.4	1.6	10.5	8.2	2.3
平均気温(℃)	17.7	14.5	3.2	14.3	13.0	1.3	11.6	11.2	0.4	14.5	12.9	1.6
降水量(mm)	42.5	39.0	3.5	18.0	45.7	△ 27.7	56.0	23.0	33.0	116.5	107.7	8.8
日照時間(hr)	38.9	56.9	△ 18.0	63.0	46.8	16.2	35.6	52.1	△ 16.5	137.5	155.8	△ 18.3

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成14～23年の10ヶ年平均値を農試が算出し、使用。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作況

5月20日 平年並

事由：播種はほぼ平年並の4月19日に行った。播種日から3日間はやや低温に経過したため、出芽始めまでに日数を要したが、その後は平年を上回る気温および日照時間で経過し、播種後7日目に出芽揃となった。揃いは良好であった。4月下旬以降も高温に経過したため、苗の伸長は早かった。

移植時における苗は、茎数は「きらら397」が平年並、「ほしのゆめ」は0.2本少なく、葉数は「きらら397」、「ほしのゆめ」ともに3.1枚で、平年に比べ0.1枚少なかった。草丈はそれぞれ12.0cm、12.8cmで平年比121%、125%と大きく上回った。地上部乾物重はそれぞれ2.29g、2.64gで、平年比110%、122%であり、苗の充実度（地上部乾物重/草丈）はそれぞれ平年比90%、97%と、平年を下回った。すなわち、苗は平年に比べやや徒長気味ではあるものの、十分な生育量を確保している。

以上により、5月20日時点の作況は、平年並である。

6月20日 やや良

事由：移植はほぼ平年並の5月21日に行った。移植直後は高温、多照に経過したため、活着が平年に比べ良好であった。その後、6月上旬はやや高温に経過したことから、分けつの発生が早かった。6月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ113%、118%で平年を上回り、主稈葉数は平年よりやや多かった。茎数もそれぞれ140%、123%と平年を上回った。

以上により、6月20日時点の作況は、やや良である。

7月20日 やや良

事由：6月下旬以降の気温はほぼ平年並に経過し、幼穂形成期は、平年対比で「きらら397」が2日、「ほしのゆめ」が3日いずれも早く、止葉始は両品種ともに1日早かった。7月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ97%、101%と平年並であった。主稈葉数は平年をやや上回り、茎数も、それぞれ116%、113%と平年を上回った。

以上により、7月20日時点の作況は、やや良である。

8月20日 平年並

事由：7月下旬は高温に推移したため、出穂期は、平年対比で「きらら397」が3日、「ほしのゆめ」が4日いずれも早かった。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がともに97%とやや短く、穂長もそれぞれ98%、95%とやや短かった。一方、穂数は、平年対比で「きらら397」が109%、「ほしのゆめ」が105%と、平年を上回った。

以上により、8月20日時点の作況は、平年並である。

9月20日 やや良

事由：8月下旬以降の気温は、平年に比べてかなり高温で経過したため登熟が進み、成熟期は、「きらら397」で9月18日、「ほしのゆめ」で9月12日と、平年に比べそれぞれ5日、7日早かった。一穂粒数は平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ99%、98%と平年並で、 m^2 当たりの粒数はそれぞれ108%、102%と平年を上回った。稈歩合は「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ平年より5.9、2.2ポイント高く、登熟歩合はそれぞれ8.7、2.3ポイント高かった。そのため、 m^2 当たり登熟粒数は「きらら397」で平年の120%、「ほしのゆめ」で105%と、平年を上回った。なお、9月9日から9月12日の間に244mmの集中した降雨があったが、倒伏などの影響は見られなかった。

以上により、9月20日時点の作況は、やや良である。

10月20日 やや良

事由：粗玄米重は、「きらら397」は64.3kg/aで平年対比103%と平年を上回り、「ほしのゆめ」は60.9kg/aで、平年の101%と平年並であった。一方、屑米歩合はそれぞれ平年を2.5、4.6ポイント下回った。千粒重は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ98%、100%と平年並であった。その結果、精玄米重は「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ60.3kg/a、54.8kg/aで、平年対比で105%、104%と平年を上回った。

以上により、10月20日時点の作況は、やや良である。

注1) 作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	～90	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

項目	品種名・ 苗種	きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗(参考)		ゆめびりか 中苗(参考)	
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年 (前6ヶ年)	本年 (前3ヶ年)		
播種期	(月.日)	4.19	4.18	1	4.19	4.18	1	4.19	4.18	4.19	4.18
移植期	(月.日)	5.21	5.20	1	5.21	5.21	0	5.21	5.21	5.21	5.20
幼穂形成期	(月.日)	7.05	7.07	△ 2	7.03	7.06	△ 3	7.03	7.04	7.03	7.05
止葉始	(月.日)	7.20	7.21	△ 1	7.18	7.19	△ 1	7.16	7.17	7.17	7.17
出穂期	(月.日)	8.01	8.04	△ 3	7.30	8.03	△ 4	7.30	8.01	7.30	7.31
成熟期	(月.日)	9.18	9.23	△ 5	9.12	9.19	△ 7	9.13	9.20	9.13	9.19
穂揃日数	(日)	5.0	5.8	△ 0.8	6.0	6.2	△ 0.2	6.0	6.3	6.0	6.7
出穂まで日数	(日)	104	108	△ 4	102	107	△ 5	102	105	102	104
生育日数	(日)	152	158	△ 6	146	154	△ 8	147	155	147	154
移植時地上部乾物重(g/100本)		2.29	2.09	0.20	2.64	2.17	0.47	2.53	2.13	2.60	2.05
草丈 (cm)	移植時	12.0	9.9	2.1	12.8	10.2	2.6	13.2	9.9	13.6	9.6
	6月20日	26.1	23.1	3.0	27.6	23.3	4.3	27.3	25.1	27.5	25.7
	7月20日	58.2	60.0	△ 1.8	62.6	62.2	0.4	63.6	66.9	62.4	70.3
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.0	0.0	1.0	1.2	△ 0.2	1.0	1.0	1.0	1.0
	6月20日	400	285	115	368	299	69	333	308	338	316
	7月20日	935	803	132	945	835	110	840	794	910	807
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.1	3.2	△ 0.1	3.1	3.2	△ 0.1	3.0	3.1	3.1	3.2
	6月20日	6.9	6.7	0.2	6.7	6.4	0.3	6.7	6.8	7.0	7.0
	7月20日	10.8	10.5	0.3	10.2	10.1	0.1	10.1	10.3	11.0	10.6
	止葉	11.0	11.0	0.0	10.2	10.4	△ 0.2	10.3	10.4	11.0	10.7
稈長	(cm)	63.6	65.8	△ 2.2	66.2	68.0	△ 1.8	68.2	69.1	65.8	69.5
穂長	(cm)	16.0	16.3	△ 0.3	14.8	15.6	△ 0.8	16.1	16.6	16.6	17.2
穂数	(本/m ²)	755	690	65	783	745	38	740	707	783	696
一穂粒数	(粒)	46.8	47.2	△ 0.4	43.1	44.1	△ 1.0	47.4	54.2	41.3	44.7
m ² 当粒数	(百粒)	353	326	27	337	329	8	351	383	323	311
稔実歩合	(%)	94.3	88.4	5.9	92.0	89.8	2.2	90.3	85.9	93.9	90.1
登熟歩合	(%)	87.8	79.1	8.7	82.7	80.4	2.3	85.3	78.9	81.4	82.5
籾摺歩合	(%)	77.7	75.8	1.9	74.4	71.2	3.2	79.8	76.3	75.6	76.2
屑米歩合	(%)	6.2	8.7	△ 2.5	10.0	14.6	△ 4.6	4.2	8.7	7.7	6.7
千粒重	(g)	22.6	23.1	△ 0.5	22.1	22.0	0.1	22.2	21.7	22.6	22.7
わら重	(kg/a)	62.0	61.7	0.3	68.0	64.3	3.7	70.0	69.7	65.1	62.5
精粒重	(kg/a)	77.6	75.9	1.7	73.7	74.0	△ 0.3	77.9	75.0	74.5	72.3
精玄米重	(kg/a)	60.3	57.5	2.8	54.8	52.7	2.1	62.2	57.2	56.3	55.1
収量平年対比	(%)	105	100	5	104	100	4	(109)	(100)	(102)	(100)
検査等級			2上	—		2上	—		2上		2上

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ほしのゆめ」の平年値は前7ヶ年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成18年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)平成21年より「ゆめびりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注5)耕種概要

土 壌 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱 栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え 反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m²、精粒重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

平成24年10月作況
(赤字下線が訂正部分)

作物G(長沼町)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より3.2℃高く、降水量は平年の115%、日照時間は平年の68%であり、高温、多雨、寡照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より1.1℃高く、降水量は平年の53%、日照時間は平年の112%であり、高温、少雨、多照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の291%、日照時間は平年の83%であり、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より1.6℃高く、降水量は平年の120%、日照時間は平年の86%であり、高温、多雨、寡照に経過した。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	21.8	19.8	2.0	19.7	18.0	1.7	15.4	16.3	△0.9	19.0	18.0	1.0
最低気温(℃)	13.1	8.8	4.3	8.4	7.5	0.9	5.9	5.1	0.8	9.1	7.1	2.0
平均気温(℃)	17.2	14.0	3.2	13.5	12.4	1.1	10.9	10.5	0.4	13.9	12.3	1.6
降水量(mm)	37.5	32.6	4.9	20.0	37.8	△17.8	46.0	15.8	30.2	103.5	86.2	17.3
降水日数(日)	2.0	3.1	△1.1	2.0	4.5	△2.5	4.0	2.4	1.6	8.0	10.0	△2.0
日照時間(hr)	<u>37.4</u>	54.8	<u>△17.4</u>	<u>51.7</u>	46.1	<u>5.6</u>	<u>43.3</u>	52.3	<u>△9.0</u>	<u>132.4</u>	153.2	<u>△20.8</u>

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。中央農試で算出。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) △は減を示す。

1. 秋まき小麦(平成24年播種)

平成24年9月20日作況: 平年並

事由: 播種期は9月20日で平年より3日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成24年10月20日作況: 平年並

事由: 播種期は平年より3日遅かったが、その後、好天と適度な降雨に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より1日遅い9月27日であった。10月上旬も気温が平年より高く推移したため生育は順調で、10月20日現在で草丈は平年を上回り、茎数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

項目 \ 年次	品種名	きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(H24.月.日)	9.20	9.17	3
出芽期	(H24.月.日)	9.27	9.26	1
出穂期	(H25.月.日)		6.8	
成熟期	(H25.月.日)		7.22	
冬損程度	(0:無~5:甚)		1.0	
草丈 (cm)	H24.10.20	21.8	17.0	4.8
	H25.5.20		45.0	
	H25.6.20		101.0	
茎数 (本/m ²)	H24.10.20	575	589	△ 14
	越冬前(11月)		1256	
	越冬後(4月)		1825	
	H25.5.20		1457	
	H25.6.20		856	
成熟期に おける	稈長 (cm)		92.0	
	穂長 (cm)		9.0	
	穂数 (本/m ²)		788	
倒伏程度	(0:無~5:甚)		1.0	
子実重	(kg/10a)		755	
容積重	(g/l)		803	
千粒重	(g)		38.0	
品質	(等級)		2等	
子実重平年対比	(%)		100	

注1) 平年値: 前7か年中、平成20年(最凶)、平成19年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)。

注2) △は平年より早、短、少を表す。

注3) 倒伏程度: 成熟期における倒伏程度。

3. 大豆

6月20日 平年並

事由：播種期は平年並の5月22日であり、出芽期も平年並であった。現在のところ、各品種の主茎長と主茎節数は概ね平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日 やや不良

事由：開花期は「ツルムスメ」、「トヨムスメ」ともに平年並であった。6月下旬から7月上旬にかけて降水量が少なく、生育は停滞した。分枝数は平年並から多いものの、主茎長は短く主茎節数もやや少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日 やや不良

事由：開花期は「ユウヅル」、「スズマル」ともに概ね平年並であった。前節までの干ばつ傾向は解消されたが、前節同様に、分枝数は平年並から多いものの主茎長が短く、主茎節数もやや少なかった。着莢数は平年の82～89%と少なかった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日 やや不良

事由：前節同様に、分枝数は平年並から多いものの主茎長が短く、主茎節数もやや少なかった。着莢数は、前節より平年との差が縮まったものの、平年の89～97%であった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日 良

事由：成熟期は「ユウヅル」で2日早かったが、その他の品種では2～4日遅かった。莢数は平年並からやや少なかったが、一莢内粒数は「ツルムスメ」と「スズマル」で多かった。百粒重は「ツルムスメ」で平年並であったが、その他の品種では平年より重かった。子実重は「ツルムスメ」が平年の111%、「ユウヅル」が119%、「トヨムスメ」が102%、「スズマル」が119%であった。「ユウヅル」では裂開粒の発生により、くず粒率が平年よりも高かった。

以上により、現在の作況は良である。

品種名 項目 \ 年次		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.03	6.03	0	6.03	6.03	0	6.03	6.03	0	6.03	6.03	0
開花期	(月.日)	7.19	7.18	1	7.28	7.28	0	7.15	7.16	△ 1	7.24	7.23	1
成熟期	(月.日)	10.01	9.29	2	10.12	10.14	△ 2	9.29	9.25	4	9.30	9.28	2
主茎長 (cm)	6月20日	9.1	9.8	△ 0.7	10.4	9.8	0.6	11.3	11.6	△ 0.3	8.6	8.2	0.4
	7月20日	42.4	49.6	△ 7.2	39.3	45.7	△ 6.4	43.4	52.0	△ 8.6	32.6	42.4	△ 9.8
	8月20日	52.7	57.4	△ 4.7	74.7	82.1	△ 7.4	50.5	60.3	△ 9.8	54.7	64.1	△ 9.4
	9月20日	51.4	56.9	△ 5.5	74.0	80.8	△ 6.8	49.9	60.0	△ 10.1	55.4	64.6	△ 9.2
	成熟期	51.0	56.9	△ 5.9	75.0	82.1	△ 7.1	49.2	59.9	△ 10.7	55.3	65.6	△ 10.3
主茎節数 (節)	6月20日	3.1	3.3	△ 0.2	3.1	3.2	△ 0.1	3.0	3.1	△ 0.1	3.1	3.4	△ 0.3
	7月20日	11.1	11.5	△ 0.4	10.7	11.4	△ 0.7	9.3	9.7	△ 0.4	11.1	11.7	△ 0.6
	8月20日	12.2	12.4	△ 0.2	14.7	15.6	△ 0.9	9.0	10.2	△ 1.2	13.7	14.1	△ 0.4
	9月20日	11.9	12.1	△ 0.2	14.4	15.1	△ 0.7	9.4	10.2	△ 0.8	13.4	13.6	△ 0.2
	成熟期	11.7	12.2	△ 0.5	14.6	15.7	△ 1.1	9.4	10.1	△ 0.7	13.1	13.9	△ 0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	6.5	6.4	0.1	4.9	3.9	1.0	7.2	5.7	1.5	8.6	8.6	0.0
	8月20日	7.0	6.6	0.4	4.7	4.8	△ 0.1	7.7	6.3	1.4	11.1	10.7	0.4
	9月20日	7.1	6.4	0.7	4.6	4.5	0.1	8.1	6.1	2.0	10.5	10.3	0.2
	成熟期	6.8	6.2	0.6	3.6	3.9	△ 0.3	8.0	5.8	2.2	9.9	10.0	△ 0.1
着莢数 (莢/株)	8月20日	46.5	54.6	△ 8.1	40.3	45.3	△ 5.0	56.6	69.4	△ 12.8	125.8	143.9	△ 18.1
	9月20日	49.3	51.5	△ 2.2	53.5	55.3	△ 1.8	57.5	64.3	△ 6.8	117.7	123.6	△ 5.9
	成熟期	50.3	51.1	△ 0.8	51.6	52.4	△ 0.8	60.8	63.4	△ 2.6	121.3	122.7	△ 1.4
一莢内粒数	1.93	1.78	0.15	1.61	1.63	△ 0.02	1.80	1.78	0.02	2.55	2.42	0.13	
子実重 (kg/10a)	373	337	36	387	325	62	375	369	6	390	329	61	
百粒重 (g)	47.5	46.4	1.1	50.2	47.4	2.8	43.0	39.8	3.2	16.5	14.5	2.0	
屑粒率 (%)	0.9	3.1	△ 2.2	11.8	3.1	8.7	1.9	2.2	△ 0.3	1.4	1.6	△ 0.2	
品質 (等級)			3上			3下			3中			2中	
子実重平年対比 (%)		111	100	11	119	100	19	102	100	2	119	100	19

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

4. 小豆

6月20日作況 平年並

事由:播種期は平年より1日早い5月24日であった。播種後、適度な降雨に恵まれたため出芽が良好であり、出芽期は平年より2日早い6月9日であった。出芽期後の6月中旬が低温に経過し、現在のところ主茎長、主茎節数ともに平年を下回っているが、問題となる遅れではない。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 やや不良

事由:6月下旬以降、少雨に経過し、生育が停滞したため、現在のところ主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日作況:やや良

事由:開花期は平年より1日遅い7月24日であった。開花期後の気温は7月下旬が平年より高く、8月上旬は低く推移したが、開花や着莢の障害は認められず、8月に入ってから適度な降雨にも恵まれたため、順調に着莢が進んだ。現在のところ、主茎長と分枝数は前節と同じく平年を下回っているが、主茎節数が平年よりやや多く、着莢数は多い。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日作況:やや良

事由:8月下旬は、平均気温が平年より3.9℃高く推移した。このため、登熟が速やかに進み、成熟期は平年より2日早い9月2日となった。成熟期における主茎長は平年より短く、主茎節数がやや多く、分枝数は少なかった。乾燥が急激に進んだため、子実の肥大が不十分なまま登熟した莢が散見されたが、着莢数は平年より多かった。百粒重は平年より軽かったものの一莢内粒数が多く、子実重は平年比106%であった。屑粒率は平年より低かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

10月20日作況:やや良

事由:子実重は平年比106%であり、百粒重が平年より軽かったが屑粒率は低く、検査等級が平年の3下に対して3中であった。

以上により、本年の作況はやや良である

品種名 項目 \ 年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.25	△ 1
出芽期	(月.日)	6.09	6.11	△ 2
開花期	(月.日)	7.24	7.23	1
成熟期	(月.日)	9.02	9.04	△ 2
主茎長 (cm)	6月20日	3.3	3.8	△ 0.5
	7月20日	19.1	23.9	△ 4.8
	8月20日	57.7	67.2	△ 9.5
	成熟期	56.2	66.9	△ 10.7
主茎節数 (節)	6月20日	1.2	1.5	△ 0.3
	7月20日	8.2	9.3	△ 1.1
	8月20日	14.1	13.4	0.7
	成熟期	13.9	13.5	0.4
分枝数 (本/株)	7月20日	3.7	4.3	△ 0.6
	8月20日	4.3	4.7	△ 0.4
	成熟期	3.7	4.5	△ 0.8
着莢数 (莢/株)	8月20日	65.3	55.2	10.1
	成熟期	58.4	52.5	5.9
一莢内粒数		5.90	5.61	0.29
子実重	(kg/10a)	306	289	17
百粒重	(g)	11.7	12.6	△ 0.9
屑粒率	(%)	1.7	2.9	△ 1.2
品質	(等級)	3中	3下	-
子実重平年対比	(%)	106	100	6

注1) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。